



高校野球のマナーとルールを学ぼう (第20回)



一般財団法人兵庫県高等学校野球連盟

グラウンドでの試合を振り返り、高校野球の大切なマナーとルールを学びましょう。
あなたの「なぜ? どうして?」にわかりやすくお答えしていきます。

マナー編 それって、しなければいけないこと?

2死一塁の場面、二塁手への打球に一塁走者が一瞬立ち止まり、声を出し手を叩いて守備を慌てさせるようなしぐさを見受けました。プレイに差しさわりはなかったものの、好ましくない雰囲気です…。

すぐに攻守交代だったので、球審がベンチに戻る当該の走者に注意したところ、選手は「打球が当たらない限り守備妨害にはならないでしょう!」と、ルールを理解しない言葉が返ってきました。球審は短時間ながら改めて、「守備妨害の要点」を説明し、ベンチへ戻り「部長に報告」することと、ベンチから「納得・了解」のサインを返してほしい、という2点を伝えました。その後、監督からの脱帽・手を挙げるサインを確認し、試合を再開しています。「野球規則は守備側優先」とも言われますが、「守備をさせる」という攻撃側の心意気でしよう。ルール違反はもちろん、守備を幻惑する言動もフェアプレイの精神に反します。(規則7-08、7-09参照)



ルール編 ファールチップとボールインプレイ

1死走者一塁、打者はスイングしたがボールはバットをかすめ捕手のミットに直接触れた後、さらにプロテクターに当たった。捕手はボールが地面に落ちる前に改めて捕球し、盗塁を企てていた一塁走者を二塁でアウトにしようとして送球した。一塁走者は打者がスイングしたのを見てファールだと思い、スピードを落としていたので二塁でアウトとなった。攻撃側から、「今のは捕手のプロテクターに当たっているのでファールボール、走者は一塁へ戻って再開」との申し出がありました…?

規則2-34には「ファールチップ」について次のように定めています。

打者の打ったボールが鋭くバットから直接捕手の手に飛んで、正規に捕球されたもので、捕球されなかったものはファウルチップとならない。ファウルチップはストライクであり、ボールインプレイである。前記の打球が、最初に捕手の手またはミットに触れておれば、はね返ったものでも、捕手が地面に触れる前に捕らえれば、ファウルチップとなる。(6-05b)

【注】チップしたボールが、捕手の手またはミット以外の用具や身体に最初に触れてからはね返ったものは、たとえ捕手が地面に触れる前に捕らえても、正規の捕球ではないから、ファウルボールとなる。

上記のケースでは、最初にミットに触れているため、地面に落ちる前なら、どんな形でも捕手の「確捕」が認められれば、「ストライクでボールインプレイ」であり、**一塁走者の二塁でのアウトは有効**です。

反対に、チップしたボールが最初に捕手のマスクやプロテクターに当たった後ならば、たとえ地面に触れる前に捕手が確捕しても、それは「正規の捕球」とは認められないため、「ファールボールでボールデッド」となります。

ファールチップした打球が、まず捕手のどこに触れたのか…によって扱いが異なるのです。関連で、野球規則6-05(b)【原注】の記載事項も確認しましょう。

